

## 『強くなりたい』

長崎県

生月剣道スポーツ少年団

中学2年 大浦 豪大

私は小学校一年生から剣道を習っています。

剣道を始めたきっかけは、兄たちの稽古についていき、大きな声を出して一生懸命練習する姿を見て「カッコいい。僕もやってみたい。」と思ったのです。あれから八年、私は剣道漬けの毎日を送っています。

中学生になった今、私にはもう一つ、剣道を続けている理由があります。それは「消防士になるための第一歩だ。」と考えていることです。私は、将来消防士になりたいと思っています。私の父が消防士であり、地域のために働く父を尊敬しています。父の姿を見ながら、いつしか私の心の中に「私も父のような消防士になりたい」という志が芽ばえました。消防士は、状況を冷静に判断しなければなりません。剣道の、一本にかける集中力や判断力は、消防士になるために必要なことだと思います。

兄たちに憧れて始めた剣道は楽しくてたまりませんでした。道場では、先輩方が優しく剣道の基本を教えてくださいました。技を教わるのが一番楽しかったです。

しかし、中学生になると、竹刀を振る速さなどが速くなり、思うように剣道ができなくなったのです。稽古もきつくなり、「行きたくないな」と思いながら道場に向かうことが増えました。しかも、試合の結果も思うようなものではありません。いつしか、「勝てない」が私の口癖となり、あんなに楽しかった剣道の時間が、面倒くさい時間になっていったのです。

そんな私に、いつも近くで見守ってくれていた父がかけてくれた言葉があります。それは「お前ならやれる。」です。父がかけてくれたこの一言が、くもっていた私の心に一筋の光を差し込ませてくれました。「私はやれる。」なくなってしまいそうだった剣道への前向きな気持ちが、また私の心の中に広がっていきました。父の言葉に背中を強く押され、そして、その言葉を信じまた一生懸命に稽古に励んでいます。

父の言葉が、弱い私の心を支えてくれたことで、今、私が思うことがあります。それは、「自分の弱い心を、自分自身の力で支え、変えていきたい」ということです。このことが剣道を続ける理由の一つに加わりました。

このように、剣道を通して私は多くのことを学んでいます。「礼儀」もその一つです。剣道で学んだ「礼儀」は、他者への思いやりです。私は人と人をつなぐもの、よりよいコミュニケーションの第一歩は「あいさつ」だと思っています。「おはようございます」「よろしくお祈いします」「ありがとうございました」このようなあいさつは、相手への尊重の表れです。相手を思いやる、尊重の心が、「あいさつ」の言葉や、表情や、態度に表れて相

手の心に届き、よりよい人間関係を築くのではないのでしょうか。

私は、学校や道場、地域でお会いする方々に、必ず大きな声で、相手の顔を見てあいさつをしています。地域の方から「ありがとう」と声をかけていただくこともあり、とてもうれしい気持ちになります。もし、剣道をやっていなかったら、こんなに「礼儀」の大切さを実感することはなかったかもしれません。

これからも、私は剣道を続けます。剣道を通して、もっと多くのことを吸収し続けます。そして、あの日父が私の心に光を差しこませてくれたように、私も、誰かの支えとなれるよう、強くたくましく成長していきたいと思います。